

PROGRAM NOTE

2009

近藤譲：空の空

バス・フルート、ヴィオラ、チェロ、ピアノのための四重奏曲

The Shadow of a Shade

for Bass-flute, Viola, Cello and Piano

この作品は、アンサンブル・ボアのピアニスト川崎翔子さんから「エチュード的な」作品を書いてほしいという依頼を受けて、2009年の年末に作曲したものです。しかし私は、実際の作曲に当たって、取り立てて「練習曲」という性格を意識したわけではありません。というのも、私がこれまでに書いてきた室内楽作品のほとんどは、結果的に、「室内アンサンブルのためのエチュード」といった性格を具えているように思えるので、つまりは、特に意識せず書けば自然にそうした性格の曲になるだろうと考えたからです。私の他の室内楽作品がそうであるように、各奏者間の非常に緊密なアンサンブルが求められるこの作品は、正に、アンサンブル技術の練習曲だと言えるでしょう。とはいえこれは、決して技術練習を目的にした作品というわけではありません。

実のところ、この曲に限らず私の作品は全て、目的をもっていません。それは、演奏又は作曲の技術練習のためでなく、自己表現のためでもなく、感情表現のためでもなく、物語を語るためでもなく、抽象的な音構成体としての形式の実現のためでもなく、又それ以外の何かの目的のためでもありませんし、更に言えば、無目的ということが目的になっているわけでもありません。私にとって、作曲という行為は、無心に音を聴き出すことへの集中でしかなく、そして私の作品は、そのようにして私の耳が聴き出した音の布置の提示に過ぎないのです。勿論、私が聴き出したものには、何らかの形で「私」が反映しているでしょう。しかし、この音の布置は、その最初の聴き手である私自身が聴いた通りに、同じ聴き方で聴かれなければならないものではありません。(私が提示した)この音の布置から何を——つまり、どんな「音」を、或いは、どんな「音楽」を——聴き出すかは、ひとりひとりの聴き手にかかっています。その意味で、この作品は(私の他の作品と同様に)、私自身にとっての、そして同時にそれに耳を傾ける全ての聴き手にとっての、「聴くこと」のエチュードなのです。

近藤譲

初演：2010年3月25日 アンサンブル・ボワ演奏会

(東京 大泉学園ゆめりあホール)

委嘱：アンサンブル・ボワ

録音：ALCD-93

出版：University of York Music Press (UK)

演奏時間：8分